

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

通信教育部での2年を 振り返って

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 湯浅 恵

はじめに

私は、3年次に編入学したこの東北福祉大学通信教育部社会福祉学科を、今年の3月に卒業しました。卒業後の現在は、在学中から事務職として在籍している病院や老人保健施設等を運営する医療法人に勤務しています。今年の1月には、社会福祉士の国家試験を受験しました。直前に繰り返し思っていたことは、「同じ苦勞を2度味わうなら、今相当な苦勞をして1度で済ませたい」ということだけでした。その一心で、試験前の一か月間は、負荷を掛けての追い込み学習を乗り切ったように思います。

目標設定と計画

私には入学を決めたときに明確に決めていたことがあります。それは、「必ず2年間で卒業し、社会福祉士の受験資格を獲得すると共に、国家試験に合格する」ということでした。何かを始めるとき、必ず目標を設定することが重要だと、私は考えています。社会人として働く中で、それをしている人としていない人の差は歴然です。目標設定と言っても、難しく考える必要はないと思いますが、もし、目標や期限を明確にせずに、曖昧なままことを始めると、必要以上に時間がかかったり、やらなくてはならないことを先延ばしにしたり、肝心なところで諦めてしまったりして、せっかく始めたことも無駄に終わることが少なくありません。一番いいのは、期限を定めて、その期限内に目標に向かって努力することではないでしょうか。そうすれば、必ずやるべきことの優先順位が見えてきて、どのよう

に進めたらよいのか、自ずと分かってくるはずです。

当たり前のことですが、目標と期限を設定したら、それに従った計画が必要です。入学後すぐに、2年で卒業し受験資格を得るためにはどうすればいいかを考えました。学習の手引きを何度も読み、地元でのスクーリングの日程を冊子で確認して、履修しなくてはならない科目を効率的に修めていくためのスケジュールを必死に考えました。そして、自分のための履修計画表を作成し、間違いの無いように何度も見直しを行いました。レポートの提出期限はもちろん、スクーリングを受講する科目は、受講料の納付期限等も組み込み、オールインワンの計画表としました。実際にこの計画表は、この2年間片時も離すことができないものとなりました。この計画通りに進めることで、無事卒業し社会福祉士の受験資格を獲得できたと思っています。

通信教育で学ぶ学生の支え

通信の学生は孤独なイメージがありますが、実際はそうではありません。ほとんどの時間を独学で費やすことになるのは事実ですが、学友が出来ると独学も孤独ではなくなります。家族や友人は、皆やさしい言葉はかけてくれますが、当然ながら誰も助けてはくれません。実際、一人机に向かう日々の中で、ありきたりな励ましの言葉は却って逆効果な時があります。励ましの言葉よりもスケジュール管理やチェックをしてくれた方が有難いと思うことすらありました。そんな心境の中、スクーリングで出会った学友たちは、同じ状況に置かれ、同じ不安を抱え、何より自分が欲しい情報をお互いに共有することができる心強い存在でした。数少ないスクーリングやメールでの彼らとのやりとりは、この2年間で、何よりの支えだったと感じています。私もそうでしたが、限られた時間の中では、オンデマンド・スクーリングを選択する人も多いかと思います。ですが、学校

等の会場で行われる通常のスクーリングは、学友と出会う貴重な機会なので、ぜひ率先して受講してほしいものです。

社会福祉援助技術実習

24日間に及ぶ実習は、非常に勉強になりました。社会人としては、仕事を休み、職場や同僚等に迷惑を掛けてしまうことが大変心苦しい思いでしたが、社会福祉士を目指す上で、実際の福祉の現場で学ぶ機会は、何物にも代えがたい貴重な経験になりました。これからの皆さんは、自分が学びたいことを、できるだけ明確にして実習に臨んでほしいと思います。繰り返しになりますが、同じ24日間でも、目標設定している人としていない人では、得るものの大きさの違いは計り知れないと思います。そして、何より実習先の担当の方々は、忙しい実務の中で、実習生の相手をしなければなりません。やる気のある人とない人、明確な目標を持って実習に挑む人とそうでない人、どちらに自分の貴重な時間を割きたいか。言わずと知れたことです。さらに、実習中には、毎晩「実習記録」に翻弄されることになるとと思いますが、これは、日々の目標を明確にすることで書きやすくなります。事前にその日の目標を決めておけば、実習中の視点が変わります。受動的な視点が能動的なものとなり、疑問も湧いてきて質問しやすくなります。私は、そのことに気づくまで、実習記録を仕上げるのに深夜に及ぶことも少なくありませんでした。

私は、市町村社会福祉協議会で実習をさせていただきましたが、担当者に恵まれ、良い実習を経験することができました。実習開始前、自分が事前に作成した実習計画（案）を実習先に提出し、それを加味した形で担当者の方から正式な実習計画が提示されました。多くの部分で、私の意向を汲んでくれた内容でした。しかし、実習を進める中で、新たに取り組みたいことが出てきました。悩んだ挙句、担当者の方に相談してみたのを覚え

ています。その結果、自分の要望を実習計画に改めて組み入れてもらうことができたときは嬉しかったです。忙しい業務の中、私たち学生を受け入れてくれる実習機関に無理は言えませんが、自分の目標設定について相談にのってもらうことが可能な場合もあります。判断がつかない場合は、学校側に相談するなどして、自分の納得のいく実習を行っていただきたいと思います。

さいごに

皆さんは、今どのような環境に身を置かれているのでしょうか。家庭や仕事との両立で、大変な苦勞をされている方も多くでしょう。時に何のためにやっているのか分からなくなることも少なからずあると思います。ですが、やると決めたとき、皆さんには何かしらの目標があったから、踏み出したのだと思います。自らが決めたスタートの着地点を目指して、一步一步進んでいかれますことを、陰ながら応援しております。2年と決めた人、5年と決めた人、あるいは、国家試験合格を目指す人、卒業を目指す人、人それぞれです。誰かと比較する必要はありません。自分が決めた目標を達成するために、自分のペースで頑張ってください。

この3月20日に、東北福祉大学へ初めて足を運び、卒業証書をいただきました。現役学生の皆さんと一緒に、保護者のような年代の私が卒業の日を迎え式典に参列できたことに、ある種の感慨深さを感じました。3月下旬のこの日、仙台でも珍しい春の雪が降り始め、さらに印象深い卒業式となりました。また、幸いにも、今年1月に受験した第26回社会福祉士国家試験に合格することもできました。辛いことの多い2年間でしたが、最後まで諦めずに続けてきたことで、走り切った達成感を味わうことが出来ました。

最後になりますが、スクーリングや演習、実習指導等でご指導くださっ

た先生方、実習の手配、スクーリングの準備等、卒業までご支援くださった職員の皆様に感謝申し上げます。日々一人で机に向かっている学生も、実は多くの方に支えられているということを実感しました。社会福祉士は、「クライアントが自らを助けることを助ける」役割を担うと学びました。本人が支えられていることに気づかずに、自らの力で目標を成し遂げることができたと感じられる援助が理想なのだと思います。通信教育部において、学生として目標を達成できた私は、ここで言うクライアントそのものでした。本当にありがとうございました。